

(社) 日本地すべり学会関東支部

2012 年 ニューズレター

(社) 日本地すべり学会関東支部 平成 23 年度第 3 回現地検討会開催について

平成 23 年度第 3 回現地検討会は、以下のとおり実施しました。

日 時：平成 23 年 12 月 1 日 (木)

場所：福島県いわき市周辺

参加人数：21 名

東北支部の主催で、2011 年 4 月 11 日に発生した福島県浜通りの地震に伴う地すべりおよび地表地震断層を調査した。

参加者 (大学、研究所、地方自治体、民間会社：写真 1) は 10 時 30 分に J R 湯本駅前に集合した後、マイクロバスで移動し、図 1 に示した三地区を調査した。

① 上釜戸地すべり

本地すべりは、いわき市渡辺町上釜戸地内に位置し、県道いわき石川線沿いで発生したものである。地すべり発生当時は、県道が 300m にわたり地すべり崩土に埋積された。

現地では、地すべりの頭部において滑落崖 (写真 2)、陥没帯が観察される。頭部付近にはシルト岩、砂岩・シルト岩互層、凝灰質シルト岩が露出している。これらの地層中には、今回の地すべりのすべり面に転化されたとも推定される層面断層が観察された (写真 3)。地すべり地の頭部は排土により除去され大規模な切土法面となっており、地すべり移動方向に傾斜する正断層 (写真 4) が観察された。地すべりの末端部では、一部アンカー工が実施されていたが、今回の地すべりにより大きく破壊・変形している (写真 5)。

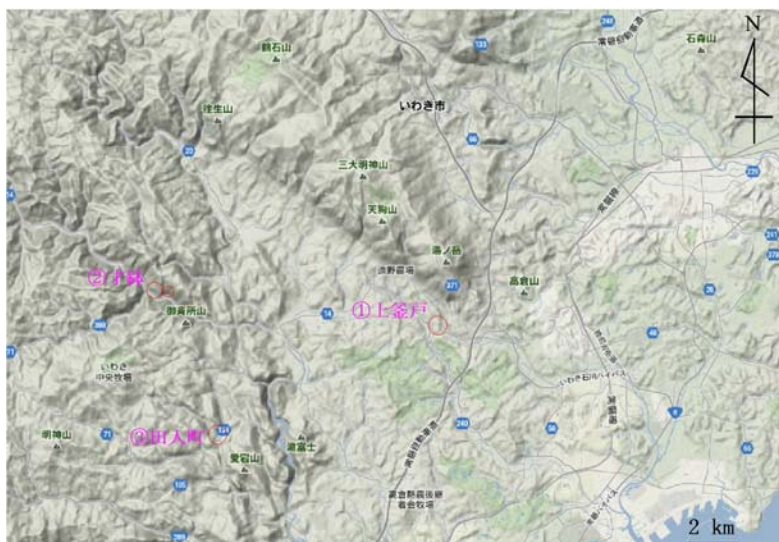


図 1 第 3 回現地検討会の調査地区



写真 1 集合写真 (田人町黒田道路を横切る地表地震断層付近)

② 才鉢地すべり

続いて調査したのは才鉢地すべりである。現地では、日本工営株式会社仙台支店様のご案内で地すべり地およびその周辺の断層地形、地表地震断層を観察した。本地すべりは鮫川の左岸側斜面で発生し、地すべりにより県道いわき石川線が大きく被災し、対岸に迂回路が建設されている（写真 6）。本地すべり地の基盤は、御斎所一竹貫変成岩類と呼ばれる古生代の変成岩で、そのほとんどが緑色片岩、泥質片岩からなる。地すべり崩土を見る限り、地すべり地の地質基盤はかなり風化、破碎されている状況である（写真 7）。

本地すべり地の北側、鮫川の左岸側斜面で地表地震断層が観察された（写真 8）。地表地震断層は、走向N10°～20°Wで西側に高角度傾斜している（写真左側）。断層による垂直方向のずれは約 70cm である。本断層は対岸の鮫川右岸側の斜面でも連続しているのが観察された。

③ 田人町黒田の地表地震断層

最後に、田人町黒田に現れた地表地震断層（井戸沢断層）を調査した。地表変状としては、道路の段差、小川、田んぼにおけるずれが連続的に観察された（写真 9）。地表地震断層は、北西側が落ちている正断層と推定されている。

参加者は全員無事に調査終了後、16:30 に JR 湯本駅にて解散した。

謝辞：今回の検討会では福島県様はじめ関係各位のご協力を頂いた。上釜戸地すべりの資料は応用地質株式会社様に御協力頂いた。才鉢地すべりについては、日本工営株式会社仙台支店様にお忙しいところ現地まで御案内していただいた。また、日本大学の梅村先生には開催の準備および当日の引率、御説明をしていただいた。ここに記し、皆様のご協力に感謝いたします。



写真 2 上釜戸地すべりの頭部



写真 3 上釜戸地すべりの頭部付近の層面断層



写真 4 上釜戸地すべりの頭部の切土面に現れた正断層



写真 5 上釜戸地すべりの末端部の変状



写真6 才鉢地すべりの全景



写真7 才鉢地すべりの末端部の状況



写真8 鯨川の左岸側斜面で観察された
地表地震断層（写真左が西、下盤）



写真9 田人町黒田の別当川を横切る
地表地震断層（写真左側が西、下盤）

発行者：社団法人 日本地すべり学会関東支部（支部長：落合博貴）
305-8687 茨城県つくば市松の里1 独立行政法人森林総合研究所
Tel：029-829-8213 Fax：029-874-8507